

去る一月九日遠藤榮副会長が逝去されました。年末にお会いしたばかりでしたので突然の訃報に大変驚き、残念でなりません。平成五年から二十年間顧問を務めて頂き、平成二十五年からは副会長として静岡陸上の向上発展に尽されましました。特に富士山女子駅伝誘致には中心になって奔走され、大会設立に心血を注がれたことは記憶に新しいところです。富士山麓の年末の風物詩として長く続いていくことと思います。いつも笑顔で若い時に走った東京大阪間駅伝のことを「心の宝だ」と懐かしそうに話されていたことや「陸協のことなら何でもやるからな」と温かく力強い言葉を常にかけて頂いたことが思い出されます。生前のご功績に深く感謝申し上げ、心よりご冥福をお祈



静岡陸上競技協会
会長 和田隆保

退任にあたって

り申し上げます。
さて、鈴木修前会長から三期六年になりますので規約によりこの六月で中部陸協選出の方と交替いたします。前会長の、法人化を始め、数々の改革を受け、少しずつ組織の整備をしてまいりました。まだまだ不十分な点は多々あると思えますが、ここまでやってこれたのは会員の皆様のご理解、ご支援のお陰です。厚く御礼申し上げます。前会長より引き継いだ四年の間で印象に残っていることは、一つに昨年のリオデジャネイロオリンピックです。本県登録、出身の選手が八名も代表となり出場しました。特に飯塚翔太選手が第二走者を務めた四×一〇〇Mリレーは銀メダルを獲得し日本中を沸かせました。スズキACの一チームから五名の出場も特筆すべきことだと思えます。二〇二〇年の東京大会にはこれ以上の人数の代表選手が生まれ、これ以上の結果があげられますよう期待しております。もう一つは平成二十五年の東京国体です。天皇杯優勝を目指して臨み、一四一点の高得点をあげましたが、地元東京に



静岡 陸協 会報

第 21 号 (2017年 3月18日発行)
一般財団法人
静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠 1-14-31
吉野寿ビル 2F
TEL・FAX 054-253-9801

僅かの差で及びませんでした。徐々に力をつけてきただけに残念でなりません。本県は過去九回優勝しておりますが、昭和六十一年を最後に、平成に入って優勝がありません。再び天皇杯トロフィーを奪還する日が来ることを切望しております。

社会人の皆さんのお力添えもあり、弱いと言われてきた長距離の力も徐々についてきておりますが、今後の競技力の向上を考えますと、どの種目においてもジュニア層の育成が大切です。小、中、高と連携をしっかりとって、社会人や学生の皆さんの力も借り、より高い競技力を目指して欲しいと思います。

また、競技運営の面では若い審判員を増やし、育てていくことが急務と思われまます。競技会の数も増えております。特定の方に負担が偏り過ぎないように、そして競技者が安心して臨める競技会を安定して実施していけるようにしたいものです。就任当初にお願いしました「自分達の陸協は自分達で運営していく」という気持ちで皆様一人一人が情熱を持って活動して頂きますようお願い申し上げます。最後にこの四年間の皆様のご協力に重ねて御礼申し上げます。静岡陸上競技協会の益々のご発展を祈念致します。



静岡陸上競技協会
理事長 鳥井啓市

東京五輪を視野に… 後期事業報告

「リオ五輪」における日本選手団の活躍ぶりは、今尚テレビをはじめとする情報文化の一角を席卷しております。その熱き視線の先には「二〇二〇東京五輪」への期待と希望が込められていると思えます。

さて、本県二十八年度事業に目を移せば、陸協の皆様をはじめとして、各協力団体の皆様のお陰を持ちまして、予定されておりました大半を大過なく実施することができました。改めて感謝御礼申し上げます。

では、後期に実施されました主な競技会の報告をさせていただきます。

《国際大会》

第三十一回リオ・オリンピック（8/12〜21・ブラジル）において、日本中に衝撃と誇りをもたらした男子四×一〇〇m R銀メダル獲得（37秒60アジア新・日本新）の快挙。あのポルト（ジャマイカ）と競い合い、強豪アメリカ、カナダ、中国を振り切った四人の激走は、トラック種目では八十八年ぶり、男子トラック種目では史上最高の結果をもたらしてくれました。特にリレーメンバーの第二走を務めた飯塚翔太君（ミズノ・藤枝明誠高出）がガトリン（アメリカ）ブレイク（ジャマイカ）らと互角の走りをした姿

は、静岡県民に勇氣と感動を与えてくれました。他にも県勢から七名の選手が出場し、それぞれが日本代表として戦った姿は、静岡県の陸上選手の層の厚さを示すと共に、「東京五輪」への挑戦を志す選手達への熱きエールとも映りました。

しかし、日本の現陸上勢力で「東京五輪」を見据えた時、次ラウンドのある種目で述べ三十人中二十四人が予選落ちの憂き目を味わい、十八種目延べ五十人が出場した中で自己新二人、シーズンベスト三人という結果は、「リレーの歴史的偉業」と讃えるのみでその総括を終わらせてはならない現状であると考えます。リレーで結果が出た今だからこそ、この経験と感動というバトンを今後の日本代表選手にパスする事こそが大切であると思います。

《国内大会：》

第六十九回全国高校総体(7/29、8/2・岡山)では、女子砲丸投で増田奈緒さん(静岡市立)が二位、男子一五〇〇mで前川優月君(浜松商)が三位、五〇〇〇m競歩で川野将虎君(御殿場南)が三位、その他八名の選手が入賞しました。

第四十三回全日本中学生選手権(8/22、24・長野)では、男子四〇〇mで川本駿斗君(浜松入野)が三位、棒高跳で松本英紳君(三島南)が三位、その他三種目で二名が、更に女子四×一〇〇mRが入賞を果たしました。

第七十一回国民体育大会(10/7、11・岩手)では、成年男子四〇〇mで加藤修也君(早稲田大・浜名高出)が二位、少年A男子やり投で前田秀悟君(菊川南

陵高)が三位、少年共通五〇〇m競歩で川野将虎君(御殿場南高)が二位、男子共通四×一〇〇mRで三位、成年女子四〇〇m松本奈菜子さん(筑波大・浜市高出)が三位、その他六名が入賞、男女総合十四位という結果でした。

近年の結果を総合的にみると、県勢が大活躍をみせた平成二十五年の高校総体(大分)国体(東京)以降、高校総体優勝者無し、国体においては昨年・今年と天皇杯入賞を逃している等、厳しい現状が続いています。改善策をどのように講じていくか、「二〇二〇東京五輪」への気運に乗り遅れないよう、今一度奮起してチーム静岡の底力を発揮できる体制作りが急務であろうと考えます。

駅伝シーズンに入って実施された県高校駅伝(11/6・エコパ)では、男子は浜松商が十八年ぶり十六回目の優勝、女子は島田が二年ぶり三回目の優勝を果たし全国駅伝へと駒を進めました。

県中学駅伝(11/12・エコパ)では、男子は静岡安東中が初優勝、女子は町立清水中が連覇を果たし全国大会出場を決めました。

全国中学駅伝(12/9・滋賀)では、女子は町立清水中のアンカー伊藤さんが区間三位の力走で八位入賞、男子は静岡安東中が三十三位でした。

全国高校駅伝(12/25・京都)では、男子の浜松商高が十四位、四区西方君の九人抜き(区間四位)の快走は見事でした。女子の島田高は三十一位でした。四校ともに全国大会への出場経験を糧に更なる精進を重ね、一層の活躍を果たされるよう期待致したいと思います。

第三十二回東日本女子駅伝(11/13・福島)では第三位と過去最高の結果を残し、一月十五日京都で開催される全国都道府県女子駅伝に弾みを付けました。

県内の冬の風物詩ともなった第十七回市町対抗駅伝競走大会(12/2)は、全三十五市町三十九チームが参加し、市の部は浜松市西部が二年ぶり七度目、町の部は小山町が二年ぶり三度目の頂点に立ちました。また、全日本大学女子駅伝(12/30・富士山女子駅伝)では、沿道に詰めかけた約十万人の大声援を受け立命館大学が四連覇、昨年から参加の県学生選抜も途切れることなく襷を繋げるといふ当初の目標を達成する事ができました。これら駅伝に寄せる人気の高さは、県の長距離選手育成に陰ながら大きな役割を果たしてくれていると考えられます。

今や、正月恒例のテレビスポーツ番組として欠かせない存在ともなった駅伝。その一つは元日に行われたニューイヤーカー駅伝(全日本実業団駅伝)。この駅伝において、大石港与君(トヨタ自動車・富士東高出)が三区で区間賞、なんと「二十人抜きの爆走」と新聞が伝える走りを見せ、連覇こそ逸したものの総合二位の原動力となりました。今ひとつの花形駅伝、それが1/2・3の両日に実施された箱根駅伝。静岡出身選手十四名がエントリーされ、内八名が箱根路を走り、母校の襷を繋ぎました。中でも、下田裕太君(青山学院大・加藤学園高出)は八区区間賞の快走を見せ、偉大なる三連覇の立役者になるなど、今や県内出身選手の大きな目標となっています。

また、第三十四回全国都道府県対抗女子駅伝(1/15・京都)六位入賞(三年ぶり七度目)、第二十二回全国都道府県対抗男子駅伝(1/22・広島)五位入賞(二年連続三度目)共に、チーム静岡全員の魂を一本の襷に込め、持てる力を結集して静岡県初の男女アベック入賞という快挙を達成しました。

年度末に向け、まだ各市町での大会が残されています。運営にあられる役員の方々には厳しい時節となりますが、今少しの頑張り、ご尽力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、岩手国体会場において次の方々が表彰されました。長年にわたるその貢献・労苦に敬意を表したいと思います。

秩父宮章 鳥井啓市

高等学校優秀指導者 岩田佳久氏

中学校優秀指導者 小嶋久典氏

私事になりますが、今年度を以て理事長職を辞することとなりました。歴代の理事長の皆様と比べ、経験も実績も浅い私ごときが任期を大過なく勤め上げられましたのも、陸協の皆様はじめ関係各位のご協力の賜物であると改めて感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

復権静岡の明日を祈念しております。



静岡県三地区報告

東部陸協二年間を振り返って

東部陸上競技協会理事長 稲葉勝巳
 今年一月九日、東部陸協会長遠藤榮氏の計報を受け、我が耳を疑う思いでした。二期四年間会長職を勤めて頂きました。最近体調が優れない事を聞いて心配しておりましたが昨年十二月三十日に行われた「富士山女子駅伝」の前日の開会式及び当日も体調が優れないにもかかわらず出席して頂き、大会終了後には「もう一期会長職を」とお願いしたところ快諾して頂き、この大会をより一層盛り上げようと話したばかりでした。本当に残念な思いでいっぱいです。

「富士山女子駅伝」はスズキの会長であり、県陸協の前会長である鈴木修氏、東部陸協会長故遠藤榮氏、前理事長望月紘一氏のご尽力により開催された大会です。私達後進にとつてはこの素晴らしい大会が永続されるよう努力し続ける事を、遠藤榮会長に誓いたいと思います。尚、全日本学生陸上競技連合会長関岡康雄氏が昨年九月にご逝去されました。お二人のご冥福を心よりお祈り致します。大変ありがとうございました。

「富士山女子駅伝」も第四回目を迎えるに当たり、より素晴らしく盛り上がる大会になるように学連と協議し、富士宮市に第一中継所を新たに設け、全七区間、四三・八kmのコースとなりました。この件につきましては、富士宮市長、富士市長のご協力を賜りました。

昨年第三回大会より、全日本学生連合

と各大学の監督のご協力により静岡県学生選抜チームが参加する運びとなりました。静岡県の女子陸上長距離選手の育成に繋がる大会になればと思います。

静岡陸上競技協会、東部陸上競技協会の役員の皆様のご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

東部陸協では台湾・台中市に交友親善試合の為、小学生選抜チームを五年前より春休みを利用して派遣しておりました。昨年七月の「東部陸上カーニバル」に台中市より四十名の選手団(選手十数名)が来日し、前日は歓迎会を行い、大会当日は天候にも恵まれ、素晴らしい競技会となりました。

今年のニューイヤ駅伝(全日本実業団対抗駅伝)では、大石港与君(富士東高出・トヨタ自動車)の三区・区間賞、箱根駅伝では、下田裕太君(加藤学園出・青山学院大)復路八区・区間賞、また高校の競歩においてもここ数年、御殿場南高校陸上部監督の岩田佳久先生を中心に、高校総体、国体、その他の試合でめざましい活躍が見られております。昨年広島県央競歩大会において川野将虎君(御殿場南高三年)が一〇〇〇〇m・40分39秒99の日本高校新記録を樹立し、東部地区出身者の活躍が目ざましく誠に喜ばしい事と思います。

一期二年間ではありましたが皆々様のご協力のお陰で勤める事が出来ました。誠にありがとうございました。

静岡陸協の益々の発展を願っております。

少子高齢化対策の継続と進展

中部陸上競技協会理事長 末高義美
 前理事長の大塩先生から引き継いで二年が経とうとしています。その間には、県陸協の財団法人化による様々な機構の変化があったり激動の二年間でした。

こうした中でも変わらない課題は、少子(選手の確保と育成)と高齢化(審判員の高齢化と減少)ではないでしょうか。

まず最初の課題である「選手の確保と育成」については、静岡県内における中部地区の占める位置づけは変わりませんが少しずつながら好調の兆しが見えてきていることも見逃せません。例えば、小学生では少年団の数が増えてきて県大会での入賞者数の増加が見られたり、中学生の全国大会出場者が増加し、高校生においては例年にならない数の県大会での入賞者数と東海大会出場者数がありました。一般では高瀬・飯塚両選手のリオオリンピック出場などの成果が上げられるでしょう。もちろん出場するだけではなくそれなりの結果を出さなければといわれるでしょうが、各部門の努力を考えれば、この少しでも実績の伸びの積み重ねが今は重要だと考えます。

中部陸協としては、この各部の強化普及活動をできる限りバックアップをし、各部の指導者の連携が図れるように勤めたいと考えています。また、指導者同士が互いを信頼し合ってこそ選手が安心して次の段階に進め、ひいては選手数の確保につながります。かつてはそれぞれの段階の指導者が師弟関係でつながり選手

の育成が図られていました。しかし、現在ではその関係の構築も困難で、学校教育における部活動の専門の顧問の確保も困難な状況です。

こうした中、各指導者が変な縄張り意識を持たず、互いが中部の陸上の発展を意識して指導に当たれるような体制作りを進めるための指導者同士の懇親会や講習会・練習会・記録会の開催を進めていきますので、ご理解ご協力をお願いします。

次に審判員の確保に関してですが、審判員の高齢化に伴い、今までのようなボランティア感覚での各大会の審判編成が困難になってきています。そこで陸協としては審判員の支給をできるだけ現実に見合った額にするように配慮したり、昼食の弁当の質を高める工夫をしたり、大学生の審判登録や参加協力を依頼するために、各校への助成金を支給したりするなど努力をしてみました。今後も皆様が審判業務に魅力を感じられるように努力します。みなさまには、審判をさせられるのではなく静岡の陸上の発展のためと考えていただいて協力をお願いします。

これ以外にもまだまだ様々な問題・課題が山積みでお願いすることばかりではあります。中部陸協を誰にも遠慮することなく意見が交わせ、互いに気持ちよく仕事ができる風通しの良いものにしてゆきたいと思っておりますので、ご協力ください。

最後に、来年度後期より中部地区のみが未実施になっていた審判員の銀行振り込みを実施いたします。ただし、振り込むのは年間の大会の中で中部陸協主催の

大会のみとなります。その準備として、年度当初の審判登録の際、各自の審判料振り込み口座の届け出をして頂くなどの手続きでお世話になります。趣旨をご理解の上ご協力願います。

西部陸協の活動を振り返って

西部陸上競技協会理事長 森下 哲治
平成二十八年度の西部陸協の大会も、中日浜名湖一周駅伝大会、浜松シテイマラソンを残し、すべての大会を無事に終了することができました。これも、会員の皆様方のご協力の賜と感謝申しあげます。この中日浜名湖一周駅伝は、今度の大会を最後に終了することとなりました。冬の浜名湖の風物詩として、四十一年も続いた大会ですので、大変寂しくなっていますが、これも致し方ないことと思っております。

さて本年度は、リオでオリンピックが開かれ、西部地区に関係した選手も多数出場いたしました。男子では、スズキ浜松 A C から八〇〇 m に川元奨選手、やり投げに新井涼平選手、十種競技に右代啓祐選手と中村明彦選手、四×四〇〇 m R に浜名高校出身で早稲田大学の加藤修也選手。女子では、スズキ浜松 A C の海老原有希選手が、日本代表として頑張ってくれました。また、静岡県出身の飯塚選手が出場し、銀メダルに輝いた、男子四×一〇〇 m R の日本チームの走りは、私たちに感動を与えてくれました。これを、二〇二〇年の東京オリンピックに結びつけてほしいものです。そして、この西部地区からも、たくさんの選手がオリピックに出場できるよう、西部陸協と

しても応援していきたいと思えます。本年度の全国大会の優勝者は、左記のとおりでした。

○日本陸上選手権大会

・男子八〇〇 m

川元奨（スズキ浜松 A C） 1分46秒22

・男子やり投げ

新井涼平（スズキ浜松 A C） 84 m 54

○日本選手権混成陸上大会

・男子十種競技

中村明彦（スズキ浜松 A C） 8180点

○全国高校定通制陸上大会

・女子砲丸投げ

馬場未空（浜松大平台高校） 8 m 71

○織田記念国際陸上大会

・男子やり投げ

村上幸史（スズキ浜松 A C） 79 m 93

・女子やり投げ

海老原有希（スズキ浜松 A C） 58 m 40

○日本選抜陸上大会

・男子混成

右代啓祐（スズキ浜松 A C） 8160点

○日本ジュニア陸上選手権大会

・女子走り幅跳び

天城帆乃香（中京大） 6 m 01

又、このほか、全国高校駅伝に、浜松商業高校が久しぶりに出場し、頑張ってくれました。

しかし、本年度は全国大会の上位入賞者が、やや少なかったように感じられます。来年度に向けて、より一層の精進を期待いたします。

さて、西部陸協では、一昨年から、審判旅費、日当を振り込みにいたしました。最初は大変なこともあり、事務局長の神谷先生にご苦勞をかけましたが、だいた

Photograph

全国都道府県駅伝



男子 第5位入賞
総合力で2年連続
3度目

男子（広島）

女子 第6位入賞 雪の中 3年ぶり7度目



女子（京都）

県市町駅伝



市の部 浜松西部チーム、
町の部 小山町チームが優勝

富士山女子駅伝

県選抜2度目の
オープン参加



編集後記

二〇一七年を迎え、この会報も今回で第二十一号です。

昨年リオ五輪で活躍した本県ゆかりの選手が県内各地で子ども達のイベントやクラブチーム・陸上教室等に参加し、五輪の体験談や基本技術指導をしました。小中学生選手たちは一流選手と接し目を輝かせて大喜び、よい刺激になったことでしょう。おそらく今後のトレーニングや精神面において大いに役立つことを期待しています。

〔編集〕

県陸協広報委員会・県陸協事務局

○橋本美智夫（編集・文責）

・水谷陽介（編集委員）

・片岡佳美（編集委員）

○写真（陸協報道 大多和・橋本）

（印刷・大日三協機）